

民主党・未来に向けて戦後補償を 考える議員連盟



(黄祐呂韓日議連会長と 2013.12.19.セヌリ党代表室で)

第3回 韓国訪問報告書 (2013年12月18日～12月20日)

【訪問の目的】

第185回臨時国会(2013年)終了後に、韓国を訪問し、国会議員・政府関係者・被害者・支援弁護士ら関係者と意見・情報交換を行う。議連としては、2010年12月、2012年9月に続く3度目の訪韓。議連新旧役員交代の挨拶とともに、戦後補償問題が原因で首脳会談も開催できない日韓の厳しい状況をどう打開すべきか、対話を重ね一緒に考えたい。

【メンバー】

団長	江田 五月議連会長 参議院議員 (元参議院議長、民主党最高顧問)
副団長	神本美恵子議連事務局長 参議院議員
藤谷光信	戦後補償議連 顧問(前会長) 前参議院議員
岡崎トミ子	戦後補償議連 顧問(初代会長) 前参議院議員
石毛えい子	戦後補償議連 副事務局長 前衆議院議員
大河原雅子	戦後補償議連 幹事 前参議院議員
小林千代美	戦後補償議連 幹事 元衆議院議員
有光健	戦後補償議連 アドバイザー(戦後補償ネットワーク世話人代表)
江田洋一	江田五月議員秘書
大塚照代	神本美恵子議員秘書
塩田三恵子	大河原雅子前参議院議員秘書

(合計 11名)

【協力】 駐日韓国大使館・駐韓日本大使館・韓日議員連盟・玄大松国民大学校教授

【日程】

12月18日(水)

- 15:30 羽田発(JL93 便)／18:05 ソウル金浦空港着
19:30 コルアナ・ホテル着/チェックイン
20:00 駐韓日本大使館から日韓情勢についてレク（小林賢一公使、菊池勇次専門調査員）

12月19日(木)

- 9:30-10:00 韓明淑元国務総理(国会議員会館事務所)
10:10-10:55 国会議事堂見学
11:00-11:45 女性家族委員会「慰安婦問題小委員会」メンバーと意見交換
＜金相姫(キム・サンヒ)女性家族委員長、吉炆宇(キル・チョンウ)小委員長、金賢淑(キム・ヒュンソク)、李ジャスミン、南仁順(ナム・インスン)、兪承希(ユ・スンヒ)、印在謹(イン・ジエクン)議員＞(国会本館女性家族委員長室)
12:00-13:30 韓日議連役員と昼食懇談会（「百里香」）
＜金泰煥(キム・テファン)会長代行、姜昌一(カン・チャンイル)幹事長、慎聖範(シン・スンボン)、金才充(キム・ジエユン)議員、朴正浩(ハク・チュンホ)事務総長＞
14:00-14:30 黄祐呂(ファン・ウヨ)韓日議連会長表敬(国会本館セヌリ党代表室)
＜南景弼(ナム・ギョングピル)顧問・朴正浩事務総長同席＞
15:00-16:00 「戦争と女性」博物館見学・尹美香(ユン・ミヒャン)挺身隊問題対策協議会代表らと意見交換
16:30-18:00 朴俊勇(ハク・ジュンユン)韓国外交部北東アジア局長と懇談(外交部)
18:30-20:30 申珪秀(シン・カクス)前駐日大使と夕食懇談(仁和洞「山内里」)

12月20日(金)

- 8:30-9:30 趙允旋(チョ・ユンスン)女性家族部長官と面談(国会議員会館会議室)
10:15-11:10 金大中図書館見学
12:30-13:30 大韓弁護士協会と昼食懇談会(大韓弁護士協会)
14:30-15:30 対日抗争期強制動員被害調査及び国外強制動員犠牲者等支援委員会(強制動員被害真相糾明・被害者支援委)訪問・朴仁煥(ハク・インファン)委員長と懇談、資料見学
16:00-17:00 日本大使館訪問(別所浩郎大使表敬・意見交換)
19:15 金浦発(JL94 便)／21:25 羽田着

江田五月 参議院議員 (HPより)

12月18日(水)

〈前略〉13時に中座し、羽田空港へ。14時前に着き、民主党の「未来に向けて戦後補償を考える議員連盟」の韓国訪問団の結団式をしました。私は議連会長で、今回の団長、神本美恵子さんが副団長、前議員の岡崎トミ子さん、石毛鏡子さん、藤谷光信さん、大河原雅子さん、小林千代美さんとスタッフの皆さん



結団式

で、大河原さんと小林さんは先に行っています。15時30分に離陸し、2時間半ほどの飛行と時差0で、18時5分金浦空港着の予定です。

18時前にソウル・金浦空港に着陸。入国手続きを済ませ、借り上げバスで市内へ。途中で女性のガイドの話がなかなか面白く、例えば韓国のアパートにはベランダもカーテンもなく、皆あけっぴろげなので、ストーカーもないそうです。そういえば、本当にカーテンはありませんでした。19時半過ぎにホテルに着き、チェックインをして、20時から、先着の大河原さん、小林さんらと合流し、日本大使館の政治担当公使の小林さんらからヒアリングを受ける段取りとなりました。

12月19日(木)

今日は、朝は雪でしたが、やがて止んで青空が広がりました。しかし気温はぐんぐん下がり、場所によっては部屋の中でもコートを脱げないほどの寒さの中で、9時前に借り上げバスで出て、終日、懇談などを続けました。

まず議員会館で、9時半から1時間弱、韓明淑(ハン・ミョンスク)元国務総理と懇談しました。現在は民主党常任顧問で、「2006年から国務総理を務め、安倍首相とも良好な関係を築いていましたが、その後、状況が変わって日韓が対立しており、心が痛みます。従軍慰安婦問題を離れて良好な関係は築けません。」と、穏やかに心のこもった話をされ、私たちも応答しました。議員会館の壁面には、多くのポスターが張られ、そのうちの一つは、「民主主義、お元気ですか?」と書かれた朴正熙大統領時代に受けた拷問の後遺症で死亡した民主活動家、金槿泰(キム・グンテ)さんの追悼ミサの告知でした。



韓明淑元國務総理を囲んで



その後、国会議事堂に移り、国際部の担当女性の案内で本会議場などを視察しました。明るい建物で、大勢の見学者が居り、押しボタン式投票と表示盤の実演などをしていました。



韓国国会本会議場を見学

11時から1時間弱、女性家族委員会の金相姫(キム・サンヒ)委員長と「慰安婦」問題小委員会の吉延宇(キム・チョンウ)宇小委員長らと懇談しました。昨年の選挙の後、暫くして小委員会を立ち上げたそうで、金委員長が原則的な立場を表明され、委員の皆さんが大勢集まってくれ、活発な質疑応答となりました。



金相姫女性家族委員長らと懇談



女性家族委員長室で

12時過ぎから14時前まで、汝矣島(ヨイド)で最も高いビルの57階のレストランで、窓外の素晴らしい景色を見ながら、韓日議員連盟の金泰煥(キム・テファン)会長代行、姜昌一(カン・チャンイル)幹事長らと昼食懇談しました。私から、父・江田三郎がソウルの善隣商業高校出身で、人力車の客と車夫の関係に日韓間で大きな違いがあることに驚き、植民地支配の異常さに気付いたことなどを話しました。金代行は、首脳会談が実現しないことにつき、朴槿恵大統領の考え方を力を込めて話され、従軍慰安婦問題に関する韓国国会の党派を越えた認識を確認しました。話に熱が入り、14時から本会議だというのに、時間をかなり超過してしまいました。



韓日議連役員と昼食会

14時15分ころから30分強、国会内のセヌリ党代表室で、同党代表最高委員の黄祐呂(ファン・ウヨ)韓日議連会長と懇談しました。若手の実力者の南景弼(ナム・ギョピル)議員も参加してくれ、和やかなひと時を過ごしました。



セヌリ党代表室で黄祐呂韓日議連会長と

15時過ぎから1時間弱、「戦争と女性」博物館で、韓国挺身隊問題対策協議会の尹美香(ユン・ミヤン)常任代表らと懇談し、さらに短時間、博物館を見学しました。私たちの団の参加者の多くは旧知で、今の手詰まり状態の打開のために何ができるか、突っ込んだ話をしました。



韓国挺身隊問題対策協議会代表(左)らと懇談



「戦争と女性」博物館を駆け足で見学

16時半過ぎから1時間半ほど、外交部の朴俊勇(パク・ジュンヨン)北東アジア局長と懇談しました。30分ほどの予定でしたが、日韓関係打開のための論点を幅広く議論したため、大幅に時間超過となりました。朴局長の最近の勤務状態は、早朝から真夜中まで忙しく、その多くは日韓関係に割かれているそうです。早期合意を期待している課題として、遺骨返還、サハリン残留韓国人の永住帰国、歴史教科書研究再開を、困難な課題として、「村山談話」と「河野談話」の確定と従軍慰安婦問題を、それぞれ上げて韓国の立場を詳しく説明されました。さらに日本側に誤って理解されている心配があるとして、朴大統領の首脳会談に対する姿勢、韓中が対日考慮で接近しているとの見方と安重根記念碑建立の経過を説明されました。私たちとしては、おおむね納得できる内容だったと思います。



朴俊勇北東アジア局長(左から2人目)と懇談

18時半から21時前まで、申珏秀(シン・グクス)前駐日韓国大使らと夕食懇談しました。日韓関係の打開策も話題でしたが、そのほかに北東アジア全体にわたって広範囲にみんなで率直な話をし、次々出される韓料理もいずれも美味しく、有意義なひと時でした。

12月20日(金)

今日は、やはり終日、一刻の休みもなく走り回りました。7時45分過ぎにホテルを出て、国会へ。途中で日の出を見ました。8時半から9時15分まで、女性家族部の趙允旋(チョ・ユンソン)長官と懇談しました。「部」は日本の「省」に、「長官」は「大臣」に当たります。47歳で弁護士資格も持ち、国会議員も経験したという眉目秀麗の女性で、朴大統領の側近とのことです。女性の地位向上策のほか、慰安婦問題も担当しており、国内に現在生存して平均年齢88歳という51人の慰安婦被害者を個別に慰労と支援にまわり、個別の支援策を実施しているそうです。日本のカウンターパートは誰かと質問すると、外交部の所管で自分では担当していないとのこと。来年1月終わりにフランスで、国際的なアニメ企画があり、そこで従軍慰安婦にされた少女たちのアニメを上映する企画を進めているそうです。その他、記録の収集や保存に関する方針の説明もありました。



趙允旋女性家族部長官(中央)と



「慰安婦」問題の現状について意見交換

10時過ぎから1時間強、金大中博物館を見学しました。私は1990年夏に自宅軟禁中だった金さんと面談し、さらに2001年5月3日に金大統領を青瓦台に訪ねました。博物館には、木浦の小学校時代の成績表や卒業証書から投獄時代、自宅軟禁時代、輝かしい大統領時代の遺品まで、幅広く蒐集され、やはり胸を打たれます。



金大中記念図書館で

12時半過ぎから1時間強、大韓弁護士協会で、戦後補償関係の事件を担当している弁護士の皆さんと懇談しました。従軍慰安婦問題につき韓国政府の権限不行使を違憲とした憲法裁判所の判断や大法院と下級裁判所の日本の韓国人徴用企業に対する民事訴訟の原告勝訴判断と今後の訴訟動向につき、担当弁護士の説明を聞きました。さらに、従軍慰安婦問題も含めて韓国の政府と企業の抛出で財団を設立する方針の説明を聞きました。これに対する日本側の参加も模索しており、検討の価値がありそうです。



大韓弁護士協会会議室で意見交換

14時半から1時間強、強制動員真相糾明・被害者支援委員会を訪ね、朴仁煥(パク・インファン)委員長と懇談しました。法律により政府内に設置された準司法機関で、申立てのほか職権でも調査をして、必要な支援をします。昨日の国会で、さらに2年ほど存続期間が延長されました。「糾明」を使っていますが、英語ではVerificationですから、「究明」の方が適切かもしれません。

朴委員長は検事出身で、数10人のスタッフや囑託調査員には法曹資格を持った者もいます。蒐集した遺品やこれまでの調査結果の書類も見せていただきました。調査結果はすべてデータで保管され、検索も簡単なようです。これから報告書作成に取り掛かるそうですが、現在までの調査結果を垣間見た限りですが、しっかりした判断をしていると思いました。

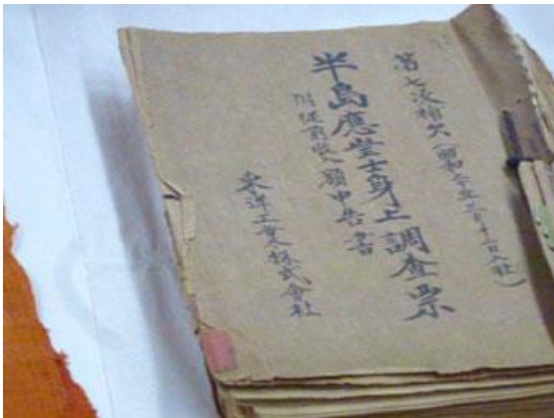
16時過ぎから1時間、日本大使館に別所浩郎大使を訪ね、2泊3日で行った多くの面談の要点と気が付いた特徴を報告し、さらに大使と若干の意見交換をしました。17時にお別れし、大使館近くで短時間、韓国の東亞日報のテレビインタビューを受けました。金浦空港までは渋滞もなく、諸手続きの後にパソコンに向かい、19時半前に離陸して羽田空港へ。21時過ぎに着陸し、入国手続きをして、22時前に議員宿舎に帰り着きました。韓国の寒さに慣れたのか、東京の寒さは全く苦にならず、部屋の中は熱く感じるほどでした。



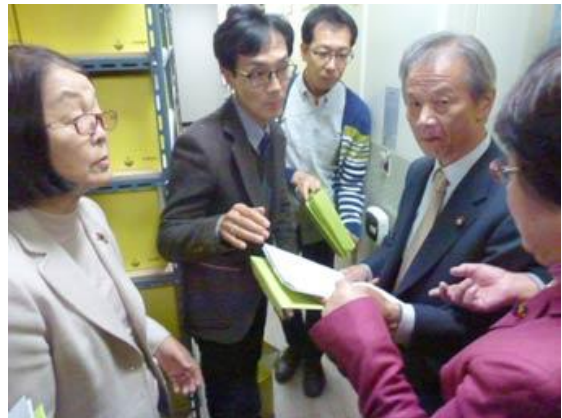
真相糾明等委員会 で朴仁煥委員長と懇談



同 - 遺品や資料を閲覧



同 - 徴用名簿



同 - 調査資料についての説明を聞く



韓国国会議事堂ホールで



国会本会議場全景



金相姫女性家族委員長



吉炆宇「慰安婦」小委員会委員長



黄祐呂韓日議連会長

神本美恵子 参議院議員

2010年の第1回目の韓国訪問は政権与党でもあり、なかなか進まない戦後補償問題を一步でも前進させるきっかけになればとの期待を抱いていたが、今回は未だに首脳会談さえ開けないという日韓両国の冷え込んだ関係の中での訪問となった。



女性家族委員会の皆さんと

安倍首相は「いつでも扉は開いている」と、暗に相手が拒んでいるかのような発言を繰り返しているが、扉の中で起きていることを見れば、そう簡単に扉をたたき気になれないのは誰にだってわかる。安倍首相は政権発足以来、韓国との関係に直接かかわる「河野談話」「村山談話」の見直しに言及、未来を担う子どもたちに両国に関する正しい歴史認識を育てるために設けられた日本の教科書検定の「近隣諸国条項」削除の動き、橋下大阪市長の従軍慰安婦問題発言、安倍首相の「強制性はなかった」発言など、両国の良好な友好関係構築に逆行するような動きばかりが続いている扉の中だ。

最初にお会いした韓明淑(ハン・ミョンスク)元国務総理は、「歴史が逆行するような現状に心が痛む。今回の訪問での対話が戦後補償、慰安婦問題の生産的な対話になることを願っている」と話された。

韓国では金大中大統領の時に、女性家族部(女性家族省)が設置され、国会には女性家族委員会がありその中に新たに「慰安婦問題小委員会」が設置されている。委員長はじめ与野党の委員との意見交換でも、日本の政治家の問題発言が取り上げられ、現在生存している元慰安婦は56名、今年も2名亡くなった。平均年齢は87歳であり、時間との闘いだ。日韓条約時には慰安婦問題の存在は認識されていなかった「残された問題」であるとの認識が話された。

朴俊勇(パク・ジュニョン)外交部(外務省)北東アジア局長も、安倍首相の「侵略の定義は定まっていない」発言に不信感を表明しながら、朴槿恵大統領が慰安婦問題は必ず解決しなければならない問題と考えていると話された。

最終日にお会いした趙允施(チョ・ユンスン)女性家族部長官(女性家族省大臣)も「ハルモ二たちが生きている間に名誉回復を。これは過去の問題でなく現在の問題だ」と国連総会で謝罪と過ちを繰り返さない責任を求めるスピーチをした。

今回の訪問で、議連の幾つかの課題の中でも、韓国側では慰安婦問題への関心がとても高く、この問題が両国関係の障壁にもなり関係改善の糸口にも成り得ると感じた。

藤谷光信 前参議院議員

私は昨年(平成25年)7月に参議院を辞してより、地方に帰り、地域の皆さんと交流を深めながら、日本のたどった道や、また現在の世相を見据え、将来像についても、色々な市民の方と語りあっています。



真相糾明委員会で資料を見学

さて、12月18日から20日にかけて、民主党の「未来に向けて戦後補償を考える議員連盟」に訪問団に同行しました。私は、参議院在職中は、この議連のメンバーでした。また、現在は西本願寺の僧侶でもございますので、請われて戦時中に亡くなられた在日朝鮮人の遺骨返還の座長もしていました。遺骨問題につきましては、軍人軍属の方々の遺骨は、日韓両国の関係者や遺族の皆さんの協力で、色々な懸案事項も解決し、祖国への返還が進んでいます。しかし、一方、民間人徴用者の遺骨は、戦後60有余年経ちましても、全て解決済みとはいきません。

特に、北海道内で、ボランティア有志の皆さまの尊いご奉仕で発見された遺骨は合葬されて、西本願寺札幌別院の納骨堂にまつられています。これの返還につきましては、合葬という状況や遺族のお考えなどがあり、これまで遅々として進みませんでした。最近になり、一部の遺族から申し出もあり、何とか祖国の地へ送ることができる可能性が、明るい兆しとして見えてきました。これは、遺族の方、発掘したボランティアの皆さん、大切に保管し長い間毎日の読経、法要を続けられた西本願寺札幌別院の方など日韓両国の政府関係者のご努力の賜物と思います。また、この「お骨」を粗末にはいけないと、今も市民レベルで活動されているボランティアの皆さんのおられることも忘れてはなりません。このような経験もあり、私としましては、韓国側の政府関係者にお会いして、これまでのお礼と、この「遺骨返還」が後戻りしないようきちんと祖国へ届け、遺族も安心し、日韓の戦後処理問題が解決できて、日韓の友好平和が進むようにと思いをこめて参加しました。

韓国は、国会開会中でしたが、汝矣島の国会議事堂内と議員会館でお逢いしました。韓国側の議連の方々とも懇談、女性家族省の大臣や民主党、セヌリ党の責任者とも、時間をかけて話すことができました。前駐日大使とは夕食を共にしてお話しました。また、挺対協と大韓弁護士会も訪問しました。日本大使館では大使と懇談しました。

ソウルはマイナス8度で厳しい寒さでした。滞在中は、面会、懇談、協議で目が回るほどの忙しさでしたが、韓国での関係者の方々の真摯で心温まる応対で、寒さも忘れて帰国しました。今回の韓国訪問の企画を立て、韓国側との交渉、準備、段取りなど、面倒で難しい日程をスムーズにやって頂いた関係者の皆さんに感謝して筆をおきます。

石毛えい子 前衆議院議員

あたらしいステージへの模索は――

きびしい日韓関係の状況であればこそ、歴史認識の問題をめぐってこれまで韓国の方がたとのあいだで培ってきた関係を大切にしたい、その思いから議連の訪韓に参加した。



韓明淑元国務総理(左)と

19日早朝、懐かしい韓明淑さんにお目にかかった。韓さんは金大中大統領の下で初の女性首相を務められた方、現在は国会議員として活躍しておられる。日本留学のご経験がありたびたび来日されていた折に、岡崎トミ子さんらと共に軍慰安婦問題等について意見交換をさせていただいていた。韓さんは日韓関係の後退をたいへん懸念しながらも、女性家族委員会との対話をつうじて関係が前進するよう、期待を示された。

今回の訪韓で、女性家族委員会の多数の議員の方々にお会いし、女性家族省長官と意見交換ができたことから、韓国での軍慰安婦問題への取り組みが新しい展開に入っているようにうかがえた。女性家族委員会慰安婦問題対策小委員会はフィリピン、台湾、日本を訪問し慰安婦問題で意見を交換し、女性家族省長官は国連でスピーチを行い、来年1月にはフランスで開かれる漫画フェスティバルに国連でのスピーチをアニメーションにして臨む、とのことだ。女性家族委員会の議員も女性家族省長官も、世代的には歴史認識問題とはつながらないのでは、と思えるほどにたいへん若い。けれど具体的に一人ひとりのハルモニの方がたと出合いつつ活動され、かつ活動は若さを体現するように国際的だ。

国連での女性家族省長官のスピーチは、謝罪を求めるのは過去へのお詫びではなく将来ふたたび起こさないという決意の謝罪、の意とうかがった。経験に対する反省が未来への糧となるようどのように感性と論を講じるのか、と思わされた場面だった。

挺対協・尹美香(ユン・ミヤン)代表にもお会いした。尹さんは安倍政権は平和に対する脅威、ハルモニたちは名誉を回復する言葉が聞こえなくなり失われることに心配している、といいつつも、皆さんが韓国の国会議員と交流しその動きがハルモニに伝わればと、私たちの訪問を受けてくださった。難しい状況だが日韓関係の悪化をこのままにしてはいけない、の声を、議連や市民運動の人たちと一緒にとも言われた。

帰途、日本国大使館で別所大使にお目にかかったが、慰安婦問題を含めすべて日韓請求権協定で解決済みとの立場はこれまでと変わりなかった。日韓の歴史問題は多くが外務省ルートでの協議がなされてきたが、もっと多角的なルートが考えられるのかもしれない。韓国女性家族省と内閣府男女共同参画局との情報の交換、日韓議連に新設されると聞く女性委員会では取り組めないか、等々。

未来を志向していかに「河野談話」を新しいステージに乗せ、課題を捉えなお

すか、をあらためて考える必要を思う訪韓となった。

きびしい日韓関係にも関わらず真摯にこころを込めて私たち議連に向かい合ってくくださったそれぞれに要職にある韓国の方がたを思うまでもなく、12月26日の安倍総理の予測にそむくような靖国参拝は怒りを覚えるにとどまらず、悲しい。

「未来に向けて戦後補償を考える議員連盟」第3回韓国訪問に参加して

実は江田洋一の「海外2つの不思議」というのがありまして、何度も訪問計画をしながら、今まで①アメリカのメインランド②韓国2か国の訪問が叶わずにりましたが、念願を果たしました。

実質1日半という限られた日程にも関わらず、大変真剣で内容のあるメニューの目白押しで大変に触発されました。

やはり聞くとみるとは大違いです。日本でのマスコミ報道ぶりと、韓国での報道ぶり、そして両国民相互の認識の違いの大きさに改めて気づかされました。併せて、韓国内で国会、政府、民間団体等で実に多岐に渡って戦後処理・戦後補償問題に取り組む現実を目の当たりにしました。そして当議連に対する時には課題過ぎるほどの期待を感じました。責任重大です。

特に印象的だった事象を列記します。

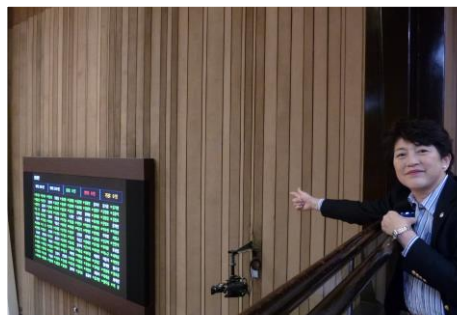
- ① 韓明淑さん。「2006年に総理として安倍首相と会談した時は、昭恵夫人ともども身近に感じていたが、最近は違う。心が痛みます。」
- ② 慰安婦問題特別委員会との懇談。「存命しているのは56人で平均年齢87歳と高齢です。今年も2名死亡しました。時間との闘いです。死んでしまえばこの問題がなくなるといった観点は言語道断です。」我が国のハンセン病問題と同様に命ある内での名誉回復が求められます。韓国でもソコクト島でのハンセン病隔離問題があります。
- ③ 黄祐呂日韓議連会長。「親の世代は嫌な事もあったが、韓日でお互い理解できた。しかし戦後世代となり、それぞれに勉強しないと双方を知ることができない事態に至っている」まさに、その通りで若者同士がともに勉強し、意見交換をしていく交流の必要性を痛切に感じました。村山・河野談話を風化させてはなりません。
- ④ 尹美香挺身隊共同代表。「議連や市民団体が日韓、アジアの関係を良くしようと多方面から声を世界に向けて発信していくべき」その通りです。頑張っていきましょう。
- ⑤ 朴俊勇外交部北東アジア局長。「杉山審議官、佐々江事務次官と話し合ってきたが、解決にいたっていない。地ならしは必要だ。慰安婦被害者は立法による責務を求めている。」後の別所大使との懇談、また中国の外交当局の人との会談等でもそうですが、双方の立場の主張が初めにありきで、なかなか深化していきません。言葉尻をとらえて、マスコミが騒ぎ立てる事もよくあります。

この感想文を書いている最中、安倍首相は就任1年の12月26日に靖国神社の参拝を強行しました。ついに安倍首相は衣を脱ぎ捨て鎧をむき出しにしました。武器三原則を見直し、集団的自衛権行使に向けての準備を加速させて行くでしょう。歴史の教訓のもと、民主主義や人権、法の支配や平和主義の未来を作ることは安倍政権にはできません。やはり再度の政権交代で、政治を真つ当なものにしていかなければなりません。そのためにも、民間交流での信頼関係醸成の重要性が求められています。粘り強く続けていきましょう。

参議院議員 江田五月事務所 江田洋一

大河原雅子 前参議院議員

「未来に向けて戦後補償を考える議員連盟」は、岡崎トミ子参議院議員(当時)を会長に、30人を超えるメンバーの登録を得て2010年春正式に発足。従軍慰安婦、遺骨返還、強制連行・の4テーマを設け、私は昨春急逝された今野東参議院議員と共に強制連行・基金問題チームの一員として活動しました。2007年初当選の私にとっては、来日される韓国・中国の当事者・関係者の方々との面談や会合では、日本の一般的な歴史教育では教えられなかった歴史や知らなかった現実と直面することが多く、その対応には国会議員ならではの重い責任を実感する議連活動となりました。



国会本会議場の議員一覧ディスプレイ

今回の議連第三回訪韓団は江田五月新会長、神本美恵子新事務局長を団長・副団長に、多年にわたり慰安婦問題や文化財返還などに取り組んでこられた岡崎トミ子前参議院議員や石毛えいこ前衆議院議員、遺骨返還問題に取り組んでこられた藤谷光信前参議院議員・小林千代美元衆議院議員と共に参加できたことは、韓国との信頼の絆として本議連への期待の大きさも知るところとなり有意義でした。安倍政権はこれまで以上に、対韓・中関係を悪化させています。私も議員としての活動が継続できないことはとても残念ですが、政治が冷え込んでいる時だからこそ、政府にできない交流を議員や市民が重ね、政治の意思を固め・決断させる環境を入念に準備する必要があると感じました。

今回の議連第三回訪韓団は江田五月新会長、神本美恵子新事務局長を団長・副団長に、多年にわたり慰安婦問題や文化財返還などに取り組んでこられた岡崎トミ子前参議院議員や石毛えいこ前衆議院議員、遺骨返還問題に取り組んでこられた藤谷光信前参議院議員・小林千代美元衆議院議員と共に参加できたことは、韓国との信頼の絆として本議連への期待の大きさも知るところとなり有意義でした。安倍政権はこれまで以上に、対韓・中関係を悪化させています。私も議員としての活動が継続できないことはとても残念ですが、政治が冷え込んでいる時だからこそ、政府にできない交流を議員や市民が重ね、政治の意思を固め・決断させる環境を入念に準備する必要があると感じました。

特に今回の訪韓は“人権問題に時効なし！”と実感するものでした。韓国初の女性大統領・朴槿恵氏は、8月15日の光復節の演説で「歴史問題をめぐる最近の状況が両国の未来を暗くしている」と安倍政権を批判し、慰安婦問題を念頭において「歴史の痛み癒す措置」を日本に要求しました。現在、韓国国内に生存する51人の元慰安婦の方々はすでに平均年齢88歳という高齢で、早期の日本政府の正式な謝罪と補償が求められています。現在は韓国民主党の常任顧問で、2006年からは国務総理を務められた韓明淑(ハン・ミョンスク)さんに面会した折にも「慰安婦問題の解決こそ喫緊の課題であり、謝罪と和解なくして両国の良好な関係は築けない」との穏やかな中にも力ある言葉に深く共感し、重く受けとめました。また、韓国民主党の金相姫(キム・サンヒ)議員が委員長を務める国会の女性家族委員会には、慰安婦問題小委員会が設置され、与党セヌリ党から吉炆宇(キル・チョンウ)議員が委員長となっており、韓国国会が党派を越えて従軍慰安婦問題の解決に本腰を入れていることを確認しました。(未だこの問題に触れない日韓議員連盟の真価も問われるところです。)超多忙な女性家族部(省)

の趙允旋(チョ・ユンソン)長官と慰安婦問題の行政担当者(いずれも女性)に面会でき、あらためて韓国では重要ポストに女性がしっかりと配置されていることを確認、同時に、日本の与野党の女性議員の活躍が期待されていると感じました。初訪問した「戦争と女性」博物館では韓国挺身隊問題対策協議会の尹美香(ユン・ミヒャン)常任代表らと懇談、ハルモニたちの現状や支援団体の活動を確認しました。

強制徴用問題では2011年に続き、真相究明委員会に2度目の訪問を行い、この間の成果を聞くと共に、遺品や戸籍・徴用記録などの資料も閲覧しました。訪問の前日に真相究明委員会の設置期間の2年間の延長決定や収集された強制徴用者22万人分の資料保管施設が釜山に現在建設中であること、補償のための基金づくりも具体化しているなど、韓国の解決への強い意志を受け止めなくてはならないと強く感じました。解決への日本の真摯な姿勢こそが、両国の国益にかなう“未来志向の関係”を築くものと確信しました。



韓明淑元国務総理・議員会館事務所で



申珏秀前駐日韓国大使&ご子息と



趙允旋女性家族部長官



金大中記念図書館で



朴仁煥真相糾明支援委員会委員長



韓日議連役員と交流



お世話になった玄大松国民大教授

【新聞報道など】

2013/12/20 20:15 聯合ニュース

http://www.chosunonline.com/site/data/html_dir/2013/12/20/2013122003583.html

韓国女性家族部長官が日本議員と面談＝慰安婦問題で

【ソウル聯合ニュース】韓国女性家族部の趙允旋(チョ・ユソク)長官は20日、日本の民主党の前職・現職の国会議員らと面談し、日本政府が旧日本軍の慰安婦問題の解決に向けて責任ある姿勢を示すべきだと強調した。

趙長官は、江田五月参院議員ら「戦後補償を考える議員連盟」の会員8人と面談し、「慰安婦問題は過去でなく現在の問題だ。戦後補償に関心がある民主党内の議員らが積極的な関心と支持を表明してほしい」と要請した。

江田議員は、慰安婦問題の悪化に心を痛めているとした上で、慰安婦問題で旧日本軍の関与を認めて謝罪した「河野談話」や植民地支配と侵略を認め反省と謝罪を表明した「村山談話」は根拠があるとの見方を示した。

13/12/21 15:39 共同

http://www.47news.jp/korean/korean_peninsula/2013/12/080618.html

韓国女性家族部長官、「慰安婦問題は、現在の問題」

【ソウル共同】韓国で旧日本軍慰安婦の女性たちの福祉の問題を担当している趙允旋(チョ・ユソク)女性家族部長官は20日、訪韓した日本の民主党の「未来に向かって戦後補償を考える議員連盟」の一行と面談を持って日本政府が慰安婦問題解決のために責任ある姿勢を見せなければならないと述べた。聯合ニュースが報じた。

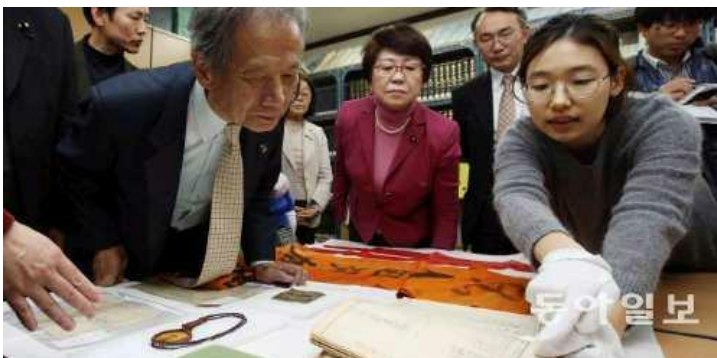
趙允旋(チョ・ユソク)長官は「慰安婦問題は過去ではなく現在の問題だ」と述べた。聯合ニュースによると、議員連盟の江田五月前参院議長は「慰安婦問題が悪化していることに心が痛い」と言った。

2013-12-21 03:00:00 記事修正 2013-12-21 09:44:21 東亜日報

<http://news.donga.com/Main/3/all/20131221/59693373/1>

【独占】“強制徴用材料を直接見て解決策探そう”ソウルに来た日の議員たち 民主党2議員、真相糾明委員会訪問

「日本の右派の妄言で韓国民に心配おかけし、日韓の未来志向の関係模索」



歴史の真実の目で確認し、日本の民主党の江田五月議員(左)が20日、対日抗争期強制動員被害調査および国外強制動員犠牲者など支援委員会の学芸員が見せる朝鮮人強制徴用のリストを注意深く見つめている。

江田議員の右は神本美恵子議員、有光健戦後補償ネットワーク（市民団体）の代表。（ヤン・フェソン記者 yohan@donga.com）

20日午後、ソウル鍾路区対日抗争期強制動員被害調査および国外強制動員犠牲者等支援委員会（以下、委員会）の地下収蔵庫。7人の日本人が朝鮮人強制徴用被害者らのデータを見るのに余念がなかった。これらの委員会が収集した被害調査の資料を一枚一枚渡して入念にデータを確認して、わからない部分は、ひとつひとつ朴仁煥（パク・インファン）委員長に聞いていた。

この日の委員会を訪れた日本人は、日本の民主党の現職の議員である。「未来に向けて戦後補償を考える議員連盟」に所属する彼らは慰安婦、朝鮮人強制徴用、戦犯問題などを解決するために声を出している日本人だ。現職議員では、連盟の会長で元参院議長の江田五月議員と神本美恵子民主党副代表が参加した。韓国人の日本軍慰安婦の存在と強制徴用を公式否認している中で、日本の現職議員が訪れ、韓国で朝鮮人強制徴用に関する証拠資料を直接見たのは初めてだ。安倍晋三首相をはじめとする日本の右派の声が強まり、韓日関係が冷え切っている中で、苦勞の多い韓国訪問となった。

議員連盟会長である江田議員は「韓日関係が冷却された中で、韓国側の率直な意見を聞きに来た」とし、「（慰安婦問題と関連し、相次ぐ妄言をした）橋下大阪市長の危険な発言と右翼メディアの報道で韓国国民に心配をかけた」と語った。彼はまた、「我々は、河野談話と村山談話に基づいて韓日関係が信頼に基づいた未来志向の関係にならなければならないと思う」と付け加えた。

この日の委員会を訪れた小林千代美元衆議院議員（北海道）は、「北海道・猿拂村に建設しようとした朝鮮人強制徴用犠牲者追悼碑が右翼の反対で無期限延期されたが、再び立てられるように努力する」と述べた。（白硯詳記者 baek@donga.com）

2013-12-2016:13 聯合ニュース報道資料

女性家族部長官、日本の民主党の「未来に向けて戦後補償を考える議員連盟」と会見 日本政府に日本軍「慰安婦」被害者問題の解決を要求



女性家族部の趙允旋長官は、12月20日（金）午前8時30分、訪韓中の日本の民主党の前・現職議員たちで構成された、「未来に向けて戦後補償を考える議員連盟」の議員団に接見し、日本政府に日本軍「慰安婦」問題解決のために、責任ある姿勢を促した。

今回の訪韓団に接見した席で趙允旋長官は、「日本内の戦後問題に対する関心を持って活動をしてくださる議員方のような方々がおり、日本軍『慰安婦』問題などの過去事問題の解決に、期待感を持てるようだ」と明かし、「日本軍『慰安婦』被害者のうちの国内生存者は51人であり、平均年齢が88歳だとして、一日一日大変な生活をしておられるのを見ると、慰『慰安婦』問題は過去の問題でない、現在の問題であることを理解する。今回訪問なされた方々と日本内の知識人社会で、『慰安婦』問題に関心と声援を送ってくださるので、難しい問題ではあるが、速やかに解決され、韓日関係がもっと近づく契機になることを希望する」と語った。

これに、今回の訪韓団の責任を引き受けている江田五月訪問団代表(現職議員、参議院4選、参議院議長を歴任)は、「『慰安婦』問題が悪化するのに対して心が痛む。橋下大阪市長は、河野談話が根拠がないと言ったが、河野談話や村山談話はその根拠があると考え」と明言した。また神本美恵子議員(参議院3選、連盟事務局長)は、「『慰安婦』問題は過去でない現在の問題だという、長官の認識に共感する。日本内での紛争下での性暴力解決の行動の課題に、『慰安婦』問題を含めさせようと努力している」ということを強調した。

また岡崎トミ子前参議院議員は、「2002年に日本軍『慰安婦』問題解決のための法案を作った後、計8回国会に提出した。満足できるものではないが、一度審議されただけで、まだ通過していない。昨日も挺対協と会ったのだが、ハルモニたちの念願を入れて法案が通過するよう努力する」と語った。

趙允旋長官はこの席で、日本軍「慰安婦」問題に対する国際社会の認識を高めるために、いろいろな方案を講じていると明かし、日本の民主党内の戦後補償問題に関心がある議員たちが、積極的な関心と支持をしてくれることを要請した。

民主党の前・現職議員8人で構成された今回の訪韓団(会長:江田五月前参議院議長)は、12月18日に入国し、20日まで国内にとどまって、国会の韓・日議員連盟の黄祐呂(ファン・ウ)会長、国会女性家族委員会の金相姫(キム・サンヒ)委員長及び日本軍「慰安婦」特別小委員会の吉延宇(キム・ジヨンウ)委員長と面談し、韓国挺身隊問題対策協議会及び大韓弁護士協会への訪問などを通して、日本軍「慰安婦」問題を含む戦後補償問題と関連した活動をするようになる。

<編集・発行> 「未来へ向けて『戦後補償』を考える議員連盟」第3回韓国訪問団

2014年1月20日

<連絡先> 〒100-8982 千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館1119号室

神本美恵子事務所 Tel:03-6550-1119 Fax: 03-3508-0010

E-mail ; mieko_kamimoto02@sangiin.go.jp